



いよいよ実技開始！緊張の一瞬



検定員のアドバイスを聞く・小回り不整地



鋭い視線を浴びせる検定員



最終種目・検定員の模範演技

翌日の練習へとゲレンデへ向かっていった。

25日、実技検定最終日も天気予報がはずれ、朝から好天に恵まれた。ギャラリーも検定員も我々も、天気がいいと検定会も楽しいものであると言つたら、受検者に失礼か？

この日の1班の1種目目は、C単位 パラレルターン（小回り不整地）、グリーンコースは結構厄介なコースと思っていたが、デラ掛けの効果か素晴らしいバーン状況であった。

2種目目は、B単位 パラレルターン（大回りナチュラル）、レッドコースの急斜面は鏡の如くピカピカ。全員合格するのでは、と思えるほどのgood斜面になっていた。

3種目目は、A単位 谷回りの連続（推進要素）、これが最終種目となるが、見た感じこの種目が一番難しかったように思う。緩斜面種目ではあるが、しっかり理解して滑らないと一発で失敗したのがバレてしまうのはコワイ！



検定眼が問われる種目・A検受検者も真剣

他の班も時々覗いてみたが、全種目を受検している班は、本当に緊張感でいっぱいという感じであったが、合格率75.9%、120名が合格したのは見事であった。

道外受検者からのコメントでは、「東京からだと便利が良く、北海道の先生は優しいから」、

「他の会場は場所が変わるが、こちらは変わらないので練習しやすい」など、主催者にとってはうれしい答えが聞かれたのは地元真利というところか。



先ずはデラ掛けから・パラ大回り

26日、9時から朝里クラッセホテル・スポーツアリーナで行われた閉会式では、ビブを着けた受検者たちが緊張した面持ちで、用意された各自の席に着いていく。取材した1班の人達は、意外と余裕さえ感じられたが、発表前は会場全体がピンと張り詰めた空気で重い。

会場の後方には、応援の家族や仲間達が駆けつけ、今や遅しと固唾を呑んで発表を待っている姿は、受験生の親の如し。

定刻、SAJ検定責任者の登山理事の挨拶で閉会式が始まった。初めにこの第1会場が昭和23年に検定会が再開されてから小樽で変わらずに開催されていること、すでに数千名の指導者が巣立っていることに触れ、指導者としての受検に対する心構えや気持ちの持ち方など、精神的なアドバイスを含めて不合格になった人達への激励と、関係者への感謝が述べられた。

続いて来賓として、道連吉田教育本部長から「疲れは取れましたか？終わったあの一杯はうまかったでしょうね」とねぎらいの言葉があり、受検者全員の健闘を称えた後、閉会式に当たっての3つのお願いが…。

- 1、今まで頑張ってきた自分を褒めてやってください。合格、不合格を乗り越えて褒めてあげてください。
- 2、沢山の人に励まされて頑張ってこれました。

家族、職場、友人、沢山の人の応援に感謝する時間にして欲しい。

3、失敗した人は、合格した人に「お前は良く頑張った」自分は不合格でも合格した人に拍手をする人になって欲しい。

このようなレベルの高い閉会式にして欲しいと激励の挨拶があり、各主任講師から講評が述べられ、いよいよ合格発表・合格証授与が開始された。最初はA級検定員、スノーボード指導員と続き、最後にスキー指導員受検者の発表となつた。



SAJ責任者登山理事の挨拶

静かな場内に合格者のビブナンバーと名前が順次呼ばれ、拍手やどよめきの中、番号が飛ぶと一瞬時間が止まったような静寂が生まれる。

一人一人登壇して合格証を受け取る受検者には、いっぱいの笑顔と涙ぐむ人も…。

合格手続きを済ませた人達の中には、会場のタイトル看板を背に記念撮影をする姿も見られ、笑顔と喜びが爆発している。



今回の受検者で最高齢の杉本氏も見事合格